

道内ではこの1年で約203戸、十勝も48戸酪農家戸数が減少（道農政部調べ）し、生乳生産も2013年度は前年比1.7%減少（ホクレン調べ）した。経営環境の厳しさから、幕別町の酪農家がホクレン集荷を離脱し、道外企業に出荷している。高齢化による離農などで減り続ける道外の生乳生産を補ってきた道内の酪農が今、岐路に立たされている。酪農をめぐる課題と将来像取材した。



道外業者への生乳出荷を見守る田口畜産の田口社長。同社のホクレン離脱で、一元集荷体制の改善を求める声が上がっている

「自分で自信があって自己責任でできる人は（ホクレン離脱でも）やればいい。しかし、私たち一般の酪農家はホクレンがなくなったらやっていけない」

今年4月、幕別町の酪農法人・田口畜産（田口廣之社長）がホクレンの集荷を離脱したことに対し、幕別町忠類で家族酪農を営む山田学さん（63）はそう訴える。

ホクレンが生乳を一手に集め、各乳業メーカーに販売する“一元集荷・多元販売”は昭和30年代に確立した。当時は酪農家が乳業メーカーと個々に交渉し、時には安い価格で買ったたかれる場合もあった。ホクレンができたことで、農家は安定して集荷を任せ、生産に専念することができた。

## 不信を生む乳価

わずか1戸の農家が離脱しただけでは、道内約6000戸の一元集荷・多元販売に影響はないとの見方が農業関係者の大勢だ。

その一方で、田口畜産の離脱以前から、全国の生乳の半分以上を一手に握る巨大組織ホクレン（札幌）と、酪農家の間に不信感のようなものが芽生えつつある。田口畜産の決断に「自分はできないが、気持ちは分かる」など、理解を示す酪農家も少なくない。

不信の背景の一つが、酪農家に支払われる乳価だ。乳価はホクレンが乳業メーカー各社と毎年交渉する。酪農家は円安や世界的な穀物高による飼料の値上がりなどから、毎年値上げを求めてきた。

## ホクレンの用途別販売乳量と乳価

4～8月 ※今年度の飲用乳価は現在も交渉中

| 量                     | 前年度比   | 乳価                            |
|-----------------------|--------|-------------------------------|
| <b>加工(脱脂粉乳・バターなど)</b> |        |                               |
| 54万0868トン             | 90.5%  | 72円46銭                        |
| <b>チーズ</b>            |        |                               |
| 19万9820トン             | 99.6%  | 63円(ゴーダ・<br>チェダー)<br>61円(その他) |
| <b>飲用</b>             |        |                               |
| 33万2427トン             | 102.8% | 114円40銭<br>※2013年度            |
| <b>生クリーム</b>          |        |                               |
| 51万4357トン             | 102.5% | 78円50銭<br>脱脂濃縮乳、<br>濃縮乳は異なる   |
| <b>合計</b>             |        |                               |
| 158万7472トン            | 97.8%  | 85円62銭<br>プール(総合)             |

ホクレンはここ4年は連続値上げを確保し、今年は生乳1キ。当たり平均3円9銭（消費税8%換算で5円47銭）の値上げで決まった。酪農家の間には「なんとかやっていける額」という評価がある一方、「牛舎新設など投資や再生産していくには十分でない」との声もある。

ホクレンの板東寛之常務は「5円の値上げはかつてない。乳業からは相当ブーイングがあった」と苦しい交渉だったことを強調する。その上で「酪農家からも満足はできないが、少しは力が出たという声も聞く。5円には根拠があり、それが不信感につながるとしたら残念」と話す。

しかし、「消費増税分を抜いたら3円にしかならず、5円と強調するのはおかしい」と根本からホクレンの姿勢を否定する酪農家もいる。さらに価格だけでなく、別の問題を指摘する声もある。

自らも酪農家の山口良一JA豊頃町組合長は「乳価全体を引き上げたことは評価する」としながらも、別の課題を挙げる。「生産基盤が危機に直面する中、ホクレンはなぜ、酪農家の手取りが安くなる価格の安いチーズ向けに優先的に配分するのか」

## 安価なチーズ向け優先

ホクレンが集荷した生乳は各メーカーの要望に応じ、価格の高い飲用、加工向け（バターや脱脂粉乳）、最も